

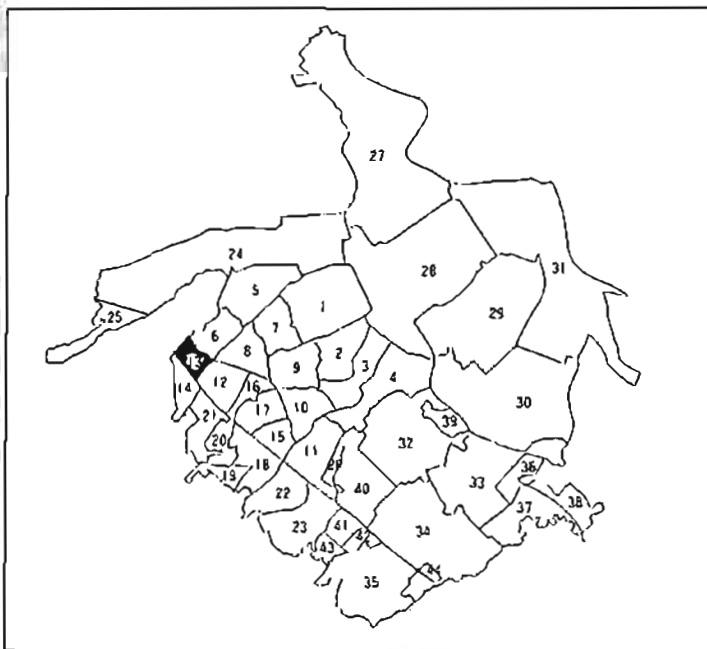
富士見市防災環境カルテ  
上沢2丁目町会

位置番号 13

概況

上沢2丁目町会は、富士見市の西部に位置し、北側は〔低地段丘（浸食斜面）〕で大井町に面し、南側は大地（台地段丘で形成されている。東側には県道大井・朝霞線が、西側には東武東上線が通り、台地には住宅地があり、環境は、緑が失われつつあるが良好である。昭和34年以前は、家屋も少なく（14棟）、武蔵野の雑木林の中に点在する畑で、農業を営む農家が集落する農村地帯であった。しかし、この台地は、雑木林、畑が宅地化されて住宅が密集している。台地と低地段丘の間には緩傾斜面の段丘崖が、町会を南北に2分するように横切っている。水害の恐れは無い。しかし、地震災害は、木造建物密集地が出火・延焼の危険性がやや高いと予想される。傾斜面の擁護壁の異常の有無について定期的な点検が必要である。

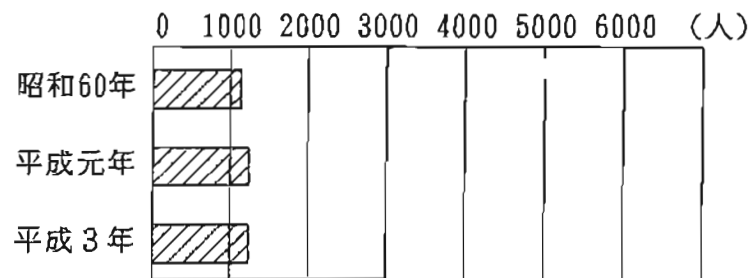
位置図



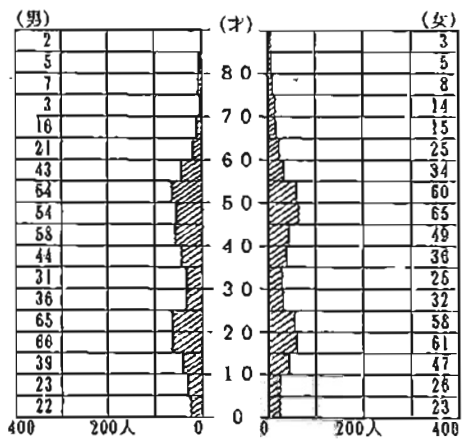
1. 基礎指標

・面積	0.089㎢
・人口(平成3年10月1日現在) 男	600人
女	588人
計	1,188人
・人口密度	13,348.3人/㎢
・寝たきり老人数	1人
・ひとり暮らし老人数	6人
・世帯数	381世帯

人口推移

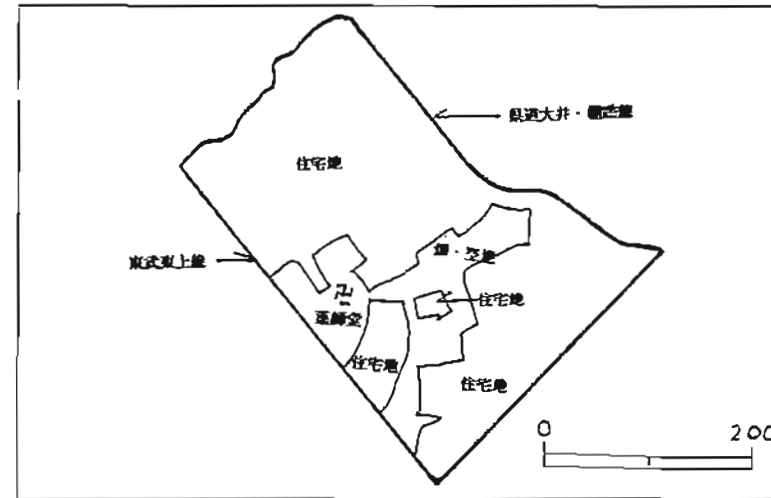


年齢別人口(平成3年)

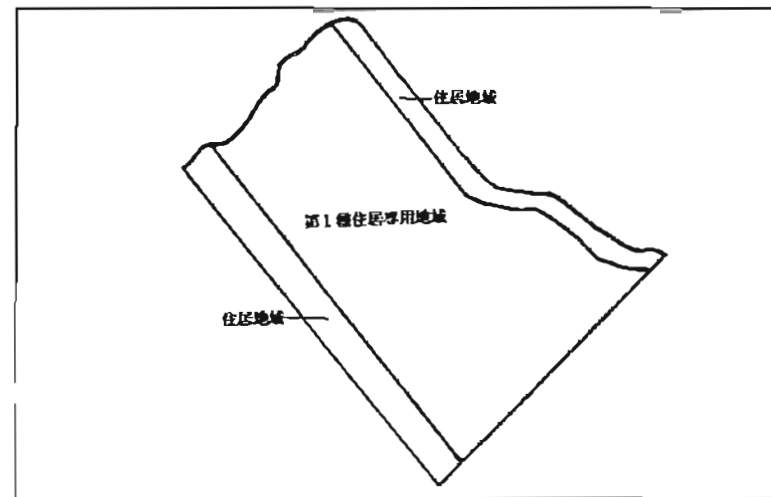


・商住工混在率住居系	90.9%
店舗系	4.2%
工業系	4.9%

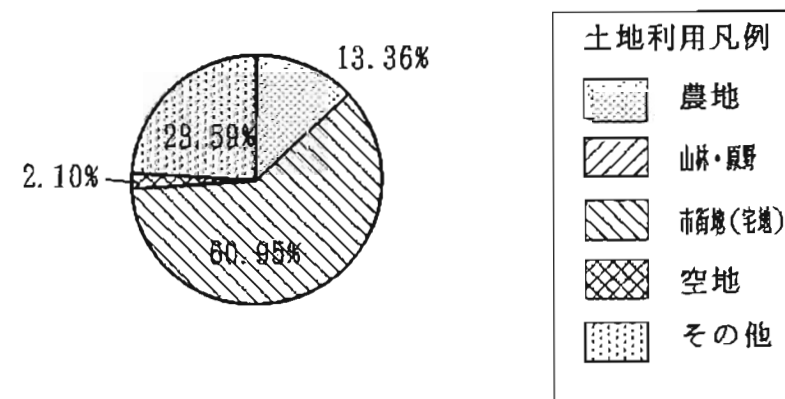
町会現況図



用途地域図



土地利用現況



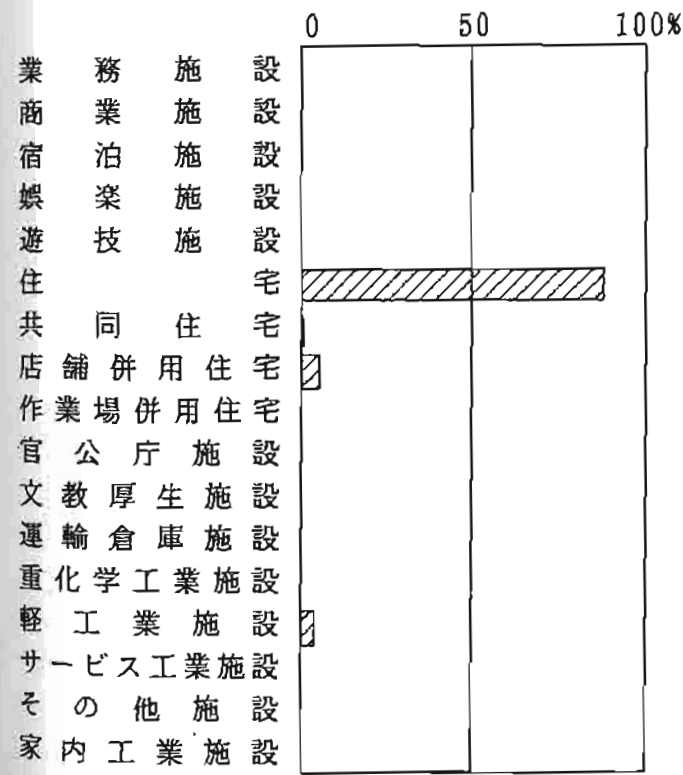
土地利用凡例

- 農地
- 山林・野
- 市街地(宅地)
- 空地
- その他

2. 建物指標

・建物棟数	451棟
・木造建物	433棟
・非木造建物	18棟
・建物面積	16,939.09㎡
・木造建物	16,007.06㎡
・非木造建物	932.03㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	88.5%
・木造率	96.0% (433棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	14棟
・同上率	3.2%
・建物階層別現況(木造建物)	
1階	98棟 22.6%
2階以上	335棟 77.4%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	25本	280.9本/㎡
・幹線道路率	2本	22.5本/㎡
・公共空地面積		0㎡
・公共空地率		0%
・1人あたり公共空地		0㎡/人
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署
応援協定	所沢市、川越地区消防組合、新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	11本
・1消火栓あたり世帯数	34.6世帯/本
・消防水利貯水施設数	0 (0) か所
	( ) 内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(台風18号)	4棟	0棟	か所
平成元年 8月(大雨)	1棟	0棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
年 月( )	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 ( 年 ~ 年)	0件		
・火災出火件数 ( 年 ~ 年)	0件		
・1923関東大地震被害			
家屋全壊	0戸		
家屋半壊	0戸		
被害率	0%		

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

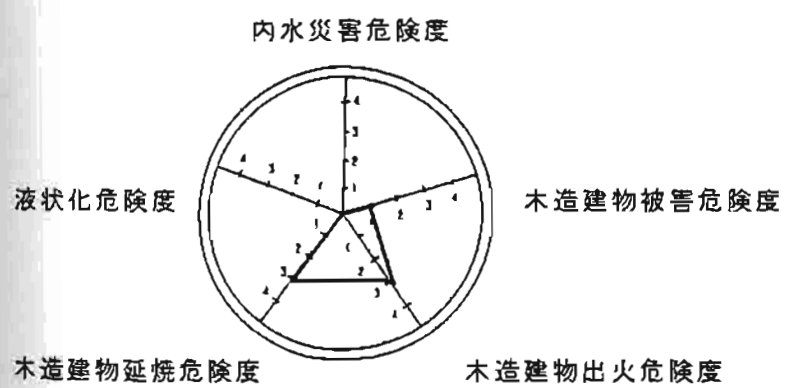
8. 危険度評価

・内水災害危険度	0ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	1ランク
危険度	液状化危険度	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



9. 地盤条件

地盤は、町会全体が台地で形成されているため硬い。したがって、震度5(+) (強震の強い方) の地震が予想される。地盤条件は良い。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	無い。	1. 水防能力	無い。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	倒壊の危険性は低い。しかし、北部の住宅地では、古い木造建物の倒壊の危険性がややあるので注意を要する。	3. 消防能力	消防水利貯水施設がない。住宅地内の生活道路が狭いので消防車の消火活動に支障をきたす。
4. 出火危険	北部の住宅地で出火の危険性がやや高いと予想される。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は50%から70%と見込まれるため北部の住宅地で延焼の危険性がやや高いと予想される。	5. 避難収容力	町会内には指定避難所がないため、上沢会館(上沢1丁目町会)、鶴瀬小学校(羽沢2丁目町会)、鶴瀬コミュニティセンター(羽沢3丁目町会)を共用する。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

北部の住宅地(木造建物密集地)で地震火災の危険性がやや高いと予想されるので、この地域の消防、防火能力を事前に評価して、その対策と指導を行う事が望ましい。避難可能な道路は主として幹線道路を使用して、避難所へ避難しなければならない。したがって、住宅地、商店街から避難可能な道路へ出る生活道路沿いにあるブロック塀の倒壊、自動販売機の転倒の予防対策の指導を行い、生活道路の狭隘化を防ぐ事が望まれる。

※ 想定震度 5(+) (強震(強))

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
■	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
■	盛 土
■	浅い谷・低地(谷底平野)
既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域

防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

